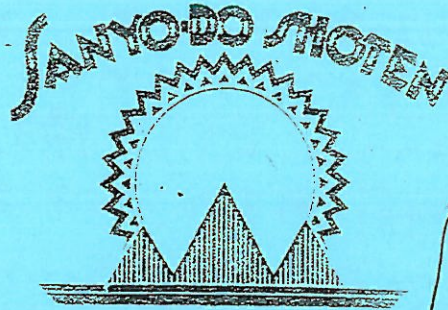


「今月のことば」

山陽堂だより 34

2012年6月水無月



山陽堂書店

03-3401-1309 ☺

臨時休業

6月9日(土)

お休みをいたしております。
通常10日売りの雑誌は
(マズイン・文芸春秋紙)
6月8日(金)の発売と判別。

「この人の前ではなら、
躊躇なく願おける。
一点の曇りもなく
そう思える人達に
出逢えたことを、
私は、いから幸せだ
と思う。」

これは、『高峰秀子
の流儀』の著者、

斎藤明美さん TV
6月2日『徹子の部屋』
13:20~13:55
出演されます。

斎藤明美さんのことばです。「『そう思える人達』とは、昭和の文女優養母
高峰秀子さんと夫の映画監督兼脚本家でもある養父の松山善三さん。
高峰さんは5才の頃子役としてデビュー。以来「5才のときから社会に
放り出され、誰一人盾にならなくくれる人も、温かく抱きかかえてくれる人もなく、
高峰は、松山善三という唯一の味方を得るまで四半世紀、懐に七首(ななびし)
を抱いていつも心の内で身構えていた。自分に近寄ってくる怪しげな大人達。
人間達をじら見つめながら事あればこの刃で... そう思って生きてきたのでは
ないか。(中略)とこまでも相手を包みこむ自愛と同時に、初めて会った
高峰秀子に私か感じたものは、確かに、何と表現してもわからない、
ある物凄さだった。」と新潮雑誌『文芸春秋』3月号に斎藤さんは書いています。

この3月、ハースト婦人画報社の 高峰秀子・松山善三著『旅は道がれ
雪月花』の発売記念トークイベントのため、斎藤明美さんから山陽堂
で二人の話をしてくれました。😊については正直(まじまじ)の
出来事でした。昨年末 斎藤さんの『高峰秀子の捨られぬ荷物』をよんで
高峰さんの生き方にとっても魅かされていたからです。と同時にこまでも
『高峰秀子』という人間を描ける斎藤明美さんで凄いなと思っていました。
斎藤明美さんの「今月のことば」の思いは、そのまま養父母である
高峰秀子さんと松山善三さんのことばである。😊とは思っています。

トークイベントは、とても温かた零風刺と笑いの中で終了し、その後
こちらからお礼状を出す前に斎藤さんからとてもうれしいお葉書と
「読めばきっと高峰秀子があなただけに話してくれます。」と書かれた甘色紙
が届きました。高峰さんの本は昔の著書も復刊され若い女性にもよく読まれて
います。

「小さいことばの原画展。」 2012.5.14(月)~5.26(土)
 酒井馬向子、松本大洋、そして糸井重里。

ギャラリーには、ひとりで来る人がほとんどでした。
 ひとりで来て、ひとりで絵をみつめ、ひとりで動画と向きあい、ひとりで本やページのめくり、ひとりでギャラリーに思いを書きつづり、ひとりで帰る。好きなように自分ひとりの時間を愉しめるって、ステキなことですね。
 ほほ日さんのサイトで「夜は、待っている。」と「ホールのようなことば。」の動画が流れています。これと同じものがギャラリー内でずっと流れていました。映像と音楽とことばと3つ重なると「ことば」たちがまたちからを感じて届きます。観てみてくたさい。動画の前で同じことばをみつめていたカッポルは、あのあと二人でこんな会話をしたのだらう。そんな風に思いました。

小さいことばの原画たちは、6月10日から21日まで、北海道の帯広市70E-ジャン
 ハル、仙台、和歌山、熊本、
 気仙沼にもいきました。方々立ちまわりました。

おかげさまで
 ギャラリーのあそ本屋になってから
 一年が経ちました。

お客さまをはじめ、多くの方に支えられて
 昨年6月3日に誕生しました「ギャラリーのあそ本屋」
 山陽堂は、一周年を迎えることができました。ありがとうございます。



6月13日(水)から6月29日(金)まで
 この一年の企画展やトークイベントの様子などを
 展示します。
 7月6日(金)から7月31日(火)まで、昨年に引き続き
 イラストレーターの安西水礼さんのシルクスクリーン展です。
 今年は、村上春樹さん小川洋子さんの装画からの
 作品です。お楽しみに!